

ペット飼育の効用は「癒し」、犬や猫を“多頭飼い”する割合が多い熊本県民 ～熊本県内のペット飼育事情～

はじめに

平成15年に子どもの数を上回ったペットの飼育数（犬・猫の合計）は、平成24年10月現在、犬が11,534千匹、猫が9,748千匹と推計され、何らかのペットを飼育している世帯の割合は36.9%に上っている（一般社団法人ペットフード協会調べ）。また、ペットの飼育が可能なマンションが増加し室内飼育化が進む中で、ペットを家族の一員として扱う（コンパニオンアニマル）傾向が高まり、関連用品だけでなく各種サービスも多様化してきている。

そこで、熊本県内におけるペットの飼育状況や特徴を探るべく、ペット飼育者を対象にネット調査を実施した結果を報告する。なお、分析にあたっては、飼育割合が多い犬と猫を中心に、また飼育状況に影響度の高い住居形態や家族構成を中心とした考察を行い、居住地別の分析は熊本県と熊本県以外（九州）で行う。

【調査結果の概要】

- 飼育しているペットの種類は犬が52.0%で最も多く、次いで、「猫」33.2%、「魚類」24.7%の順となった。またペット飼育の効用は「癒される」が圧倒的に多かった。
- 集合住宅での犬と猫の飼育比率が相対的に低く、とりわけ「賃貸の集合住宅」での犬や猫の飼育は、現状でも難しいようだ。
- 犬の飼育数は「1匹」が8割（80.8%）となっているが、猫は半数近く（46.5%）が2匹以上飼育している。
- 利用しているサービス等では「動物病院」が犬、猫ともに最も多かったが、犬の場合は「ペット美容」や「ペットホテル/ペットシッター」等の利用も多く、多様化している。
- 熊本県居住者は、犬、猫ともに「5匹以上」飼育している割合が熊本県以外より多くなっており、“熱烈な犬猫好き”が多いのかもしれない。

【回答者の属性】

居住地	合計	熊本県		熊本県以外		
	732	208	524	100.0%	28.4%	71.6%
性別	合計	男性	女性			
	732	366	366	100.0%	50.0%	50.0%
年代	合計	20～49歳	50歳以上			
	732	501	231	100.0%	68.4%	31.6%
住居形態	合計	持家・一戸建て	持家・集合住宅	賃貸・一戸建て	賃貸・集合住宅	その他
	732	520	60	45	104	3
	100.0%	71.0%	8.2%	6.1%	14.2%	0.4%
家族構成	合計	一人暮らし	夫婦のみ	夫婦と子供	三世代	その他
	732	48	137	420	92	35
	100.0%	6.6%	18.7%	57.4%	12.6%	4.8%

【調査概要】

- ・調査対象 九州在住のペットを飼育する男女732人
- ・調査時期 平成25年3月13日（水）～15日（金）
- ・調査方法 調査会社登録モニターへのネット調査（調査会社：㈱マクロミル）

上段：人数
下段：構成比

1. 飼育しているペットの種類

・「賃貸の集合住宅」では難しい犬や猫の飼育

・“犬と猫の両方を飼っている”割合が多い熊本県民

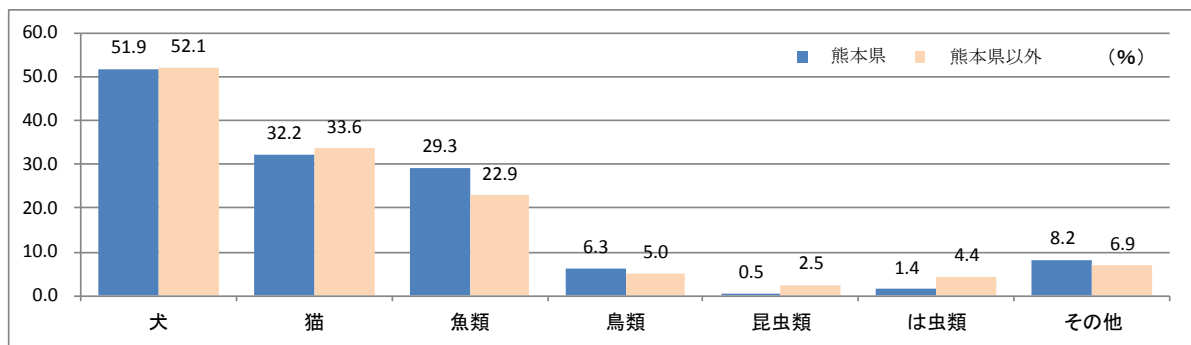
飼育しているペットの種類は、全体では「犬」が52.0%で最も多く、次いで「猫」33.2%、「魚類」24.7%の順となっており、ペット飼育者の過半数が「犬」を飼育している。居住地別にみると、熊本県では「魚類」の飼育比率が熊本県以外より6.4ポイント（以下、p）高くなっている点が目立つ。

住居形態別にみると、【賃貸】集合住宅では「犬」が39.4%、「猫」が19.2%と他の形態に比べて低くなっている一方で、「魚類」（33.7%）と「は虫類」（7.7%）が高くなっている。室内での飼育に不向きな大型犬や、床や壁等の傷がつきものの猫の飼育については、とりわけ賃貸の集合住宅では難しいようである。

家族構成別では、夫婦のみ（59.9%）とその他（60.0%）では「犬」が他より高く、一人暮らし（39.6%）と三世代（40.2%）で「猫」が高くなっている。（図表1）。

なお、犬と猫の両方を飼育している割合は全体の8.2%（60人）となっているが、熊本県は10.1%（21人）、熊本県以外では7.4%（39人）と、わずかながら熊本県の方が上回っている。

図表1 飼育しているペットの種類



		犬	猫	魚類	鳥類	昆虫類	は虫類	その他
全体		52.0	33.2	24.7	5.3	1.9	3.6	7.2
居住地	熊本県 (n=208)	51.9	32.2	29.3	6.3	0.5	1.4	8.2
	熊本県以外 (n=524)	52.1	33.6	22.9	5.0	2.5	4.4	6.9
性別	男性 (n=366)	48.6	37.2	26.5	4.9	2.7	3.3	5.5
	女性 (n=366)	55.5	29.2	23.0	5.7	1.1	3.8	9.0
年齢	20～49歳 (n=501)	49.3	33.3	28.3	5.6	2.6	4.4	7.4
	50歳以上 (n=231)	58.0	32.9	16.9	4.8	0.4	1.7	6.9
住居形態	【持ち家】戸建て (n=520)	54.6	36.3	24.0	5.2	1.7	2.5	6.5
	【持ち家】集合住宅 (n=60)	51.7	25.0	21.7	6.7	3.3	5.0	13.3
	【賃貸】戸建て (n=45)	51.1	40.0	15.6	4.4	2.2	4.4	4.4
	【賃貸】集合住宅 (n=104)	39.4	19.2	33.7	5.8	1.9	7.7	8.7
家族構成	一人暮らし (n=48)	50.0	39.6	18.8	2.1	0.0	2.1	4.2
	夫婦のみ (n=137)	59.9	32.1	13.9	3.6	0.0	1.5	4.4
	親と子供のみ (n=420)	49.3	31.9	27.1	5.7	2.4	4.8	7.4
	三世代 (n=92)	51.1	40.2	34.8	6.5	3.3	2.2	10.9
	その他 (n=35)	60.0	25.7	20.0	8.6	2.9	2.9	11.4

は全体を5p以上上回るもの

は全体を5p以下下回るもの

2. ペットの飼育数

(1) 犬の飼育数

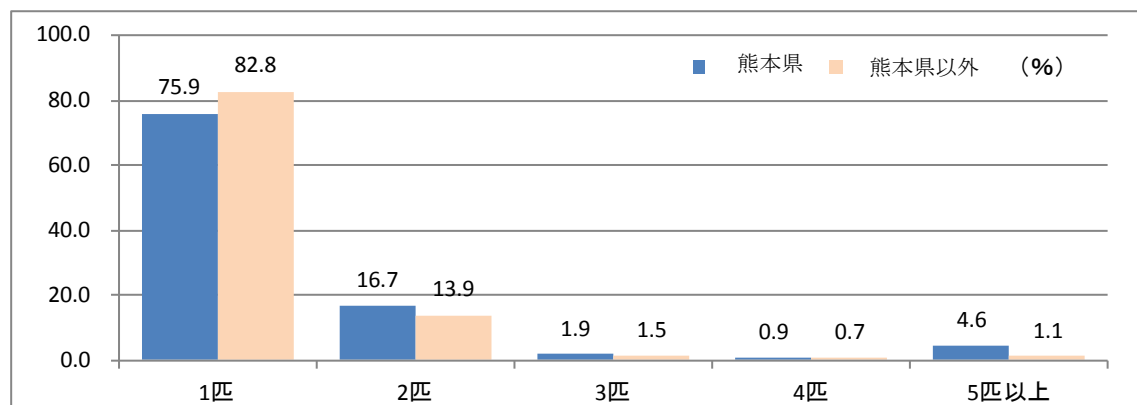
- ・全体の8割は飼育数「1匹」、残りの2割は複数飼育
- ・熊本県民は、複数飼育の割合が多く、「5匹以上」の割合が他県の4倍に

犬の飼育数については、全体では「1匹」が80.8%で最も多く、次いで「2匹」が14.7%となっており、1～2匹で全体の95.5%を占めている。

居住地別にみると、熊本県では「1匹」が熊本県以外に比べると6.9p低くなっている一方で、「2匹」が2.8p、「5匹以上」が3.5p、いずれも熊本県以外より高くなっている。熊本県は他県に比べて複数の犬を飼育しているケースが多いようだ。

住居形態別にみると、2匹以上の複数飼育の比率は、【持ち家】、【賃貸】を問わず戸建ての方が高くなっており、「5匹以上」は【持ち家】戸建てのみとなっている。家族構成別では、一人暮らし(70.8%)と三世代(70.2%)では、「1匹」が他より低い、一人暮らしは「5匹以上」が12.5%と他に比べて高くなっているのが目立つ(図表2)。

図表2 犬の飼育数



		1匹	2匹	3匹	4匹	5匹以上
	全体 (n=381)	80.8	14.7	1.6	0.8	2.1
居住地	熊本県 (n=108)	75.9	16.7	1.9	0.9	4.6
	熊本県以外 (n=273)	82.8	13.9	1.5	0.7	1.1
性別	男性 (n=178)	82.0	15.2	0.0	0.6	2.2
	女性 (n=203)	79.8	14.3	3.0	1.0	2.0
年齢	20～49歳 (n=247)	79.8	15.8	1.6	0.8	2.0
	50歳以上 (n=134)	82.8	12.7	1.5	0.7	2.2
住居形態	【持ち家】戸建て (n=284)	78.9	15.5	1.8	1.1	2.8
	【持ち家】集合住宅 (n=31)	93.5	6.5	0.0	0.0	0.0
	【賃貸】戸建て (n=23)	82.6	17.4	0.0	0.0	0.0
	【賃貸】集合住宅 (n=41)	82.9	14.6	2.4	0.0	0.0
家族構成	一人暮らし (n=24)	70.8	16.7	0.0	0.0	12.5
	夫婦のみ (n=82)	80.5	18.3	1.2	0.0	0.0
	親と子供のみ (n=207)	85.0	11.6	1.4	0.5	1.4
	三世代 (n=47)	70.2	19.1	4.3	4.3	2.1
	その他 (n=21)	76.2	19.0	0.0	0.0	4.8
は全体を5p以上上回るもの		は全体を5p以上下回るもの				

(2)猫の飼育数

- ・2匹以上の複数飼育が犬に比べて多く、猫は複数飼育が一般的
- ・熊本県民は「5匹以上」が1割を超えており、“猫好き”の県民性か!?

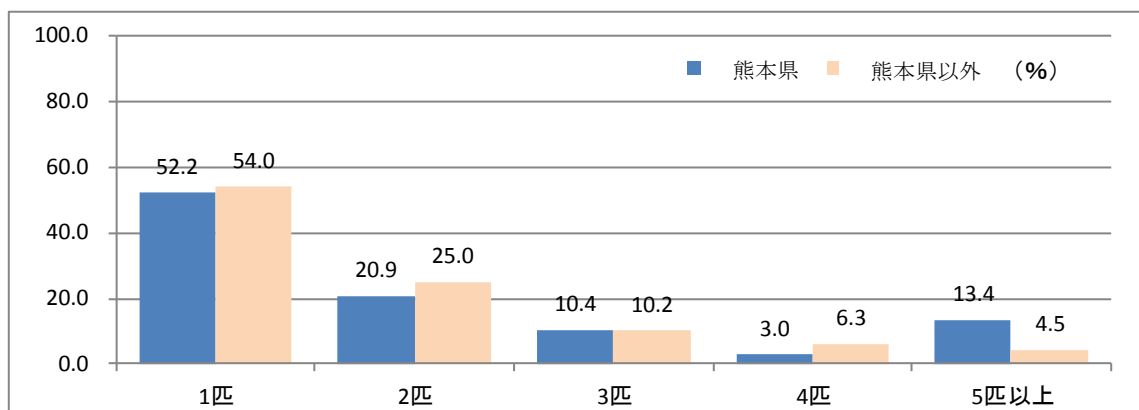
猫の飼育数については、犬と同様に全体では「1匹」が53.5%で最も多かったが、その比率は犬と比べると27.3p低い。一方で、「2匹」が23.9%、「3匹」が10.3%、「4匹」が5.3%、「5匹以上」が7.0%と、いずれも犬より高くなっており、猫を飼育する場合は複数飼育が一般的のようだ。

居住地別にみると、熊本県でも「1匹」が52.2%で最も高いが、熊本県以外よりわずかに低くなっている。一方で、「5匹以上」では13.4%と、熊本県以外より8.9p高くなっており、熊本県民は“猫好き”の印象を受ける。

住居形態別にみると、集合住宅の場合は「1匹」が多く（【持ち家】60.0%、【賃貸】75.0%）、4匹以上は皆無となっているのに対して、戸建てでは、【持ち家】【賃貸】を問わず、4匹以上飼育しているケースがあり、猫を複数飼育するには戸建ての方が適しているようだ。

家族構成別にみると、一人暮らしでは「1匹」(36.8%)が他に比べて低い一方で、「3匹」(26.3%)では高くなっている。また、夫婦のみ(45.5%)とその他(44.4%)も「1匹」は相対的に低く、「2匹」で高くなっている。三世代では「5匹以上」が13.5%で最も高くなっている(図表3)。

図表3 猫の飼育数



		1匹	2匹	3匹	4匹	5匹以上
全体 (n=243)		53.5	23.9	10.3	5.3	7.0
居住地	熊本県 (n=67)	52.2	20.9	10.4	3.0	13.4
	熊本県以外 (n=176)	54.0	25.0	10.2	6.3	4.5
性別	男性 (n=136)	58.1	21.3	11.0	4.4	5.1
	女性 (n=107)	47.7	27.1	9.3	6.5	9.3
年齢	20~49歳 (n=167)	53.9	24.6	9.0	5.4	7.2
	50歳以上 (n=76)	52.6	22.4	13.2	5.3	6.6
住居形態	【持ち家】戸建て (n=189)	50.8	25.4	9.0	6.3	8.5
	【持ち家】集合住宅 (n=15)	60.0	20.0	20.0	0.0	0.0
	【賃貸】戸建て (n=18)	55.6	16.7	16.7	5.6	5.6
	【賃貸】集合住宅 (n=20)	75.0	15.0	10.0	0.0	0.0
家族構成	一人暮らし (n=19)	36.8	31.6	26.3	0.0	5.3
	夫婦のみ (n=44)	45.5	31.8	11.4	4.5	6.8
	親と子供のみ (n=134)	58.2	20.9	8.2	6.7	6.0
	三世代 (n=37)	56.8	18.9	8.1	2.7	13.5
	その他 (n=9)	44.4	33.3	11.1	11.1	0.0

は全体を5p以上上回るもの

は全体を5p以上下回るもの

3. 各種サービス等の利用状況

(1) 犬の利用状況

- ・全体の8割近くが「動物病院」を利用、「ペット葬祭」や「ペット保険」等の人間と同様のサービス等も1割程度利用
- ・熊本県民は全体的にサービス等の利用率が高く、一方で「特にない」は他県に比べて低く1割程度にとどまる

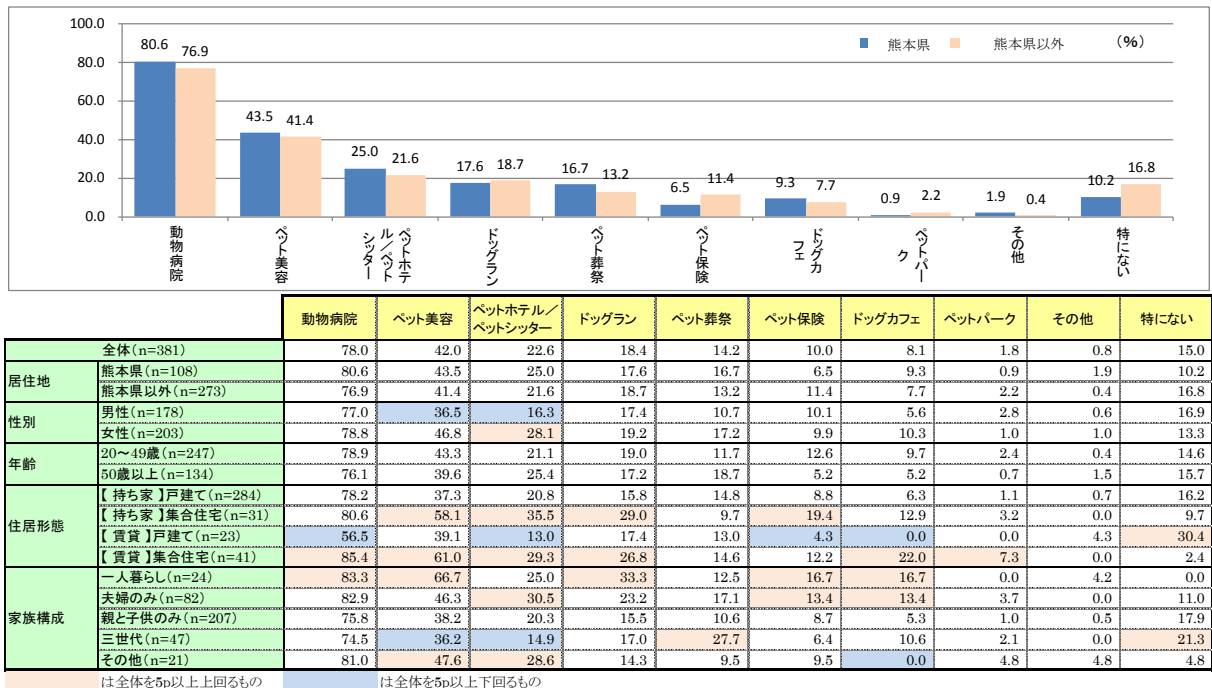
犬に関するサービス等の利用状況をみると、全体では「動物病院」が78.0%で最も高くなっており、以下「ペット美容」42.0%、「ペットホテル/ペットシッター」22.6%と続いている。病気やケガの際に利用する「動物病院」はもちろんだが、利用サービスが多様化しており、人間と同様のサービス等が利用されているようだ。

居住地別にみると、熊本県では全体的にサービス等の利用率が高く、「ドッグラン」と「ペット保険」、「ペットパーク」以外のサービス等で熊本県以外を上回っている。

住居形態別にみると、【持ち家】【賃貸】に関わらず、戸建てに比べて集合住宅の利用率が、相対的に高くなっている。集合住宅の場合は、原則として室内飼育となることから、飼育上の制約が多いことが背景となっているのではなかろうか。

家族構成別にみると、一人暮らしと夫婦のみで利用率が他に比べて高くなっているのに対して、親と子供のみと三世代では低くなっている。これらのことから、家族の構成員が少ないほど、多様なサービス等を利用する傾向があると言えそうだ。(図表4)。

図表4 犬に関する利用サービス等



(2)猫の利用状況

- ・「動物病院」を除くと、犬に比べてサービス等の利用は全体的に低い
- ・熊本県民は「ペット葬祭」の利用比率が他県に比べて高い

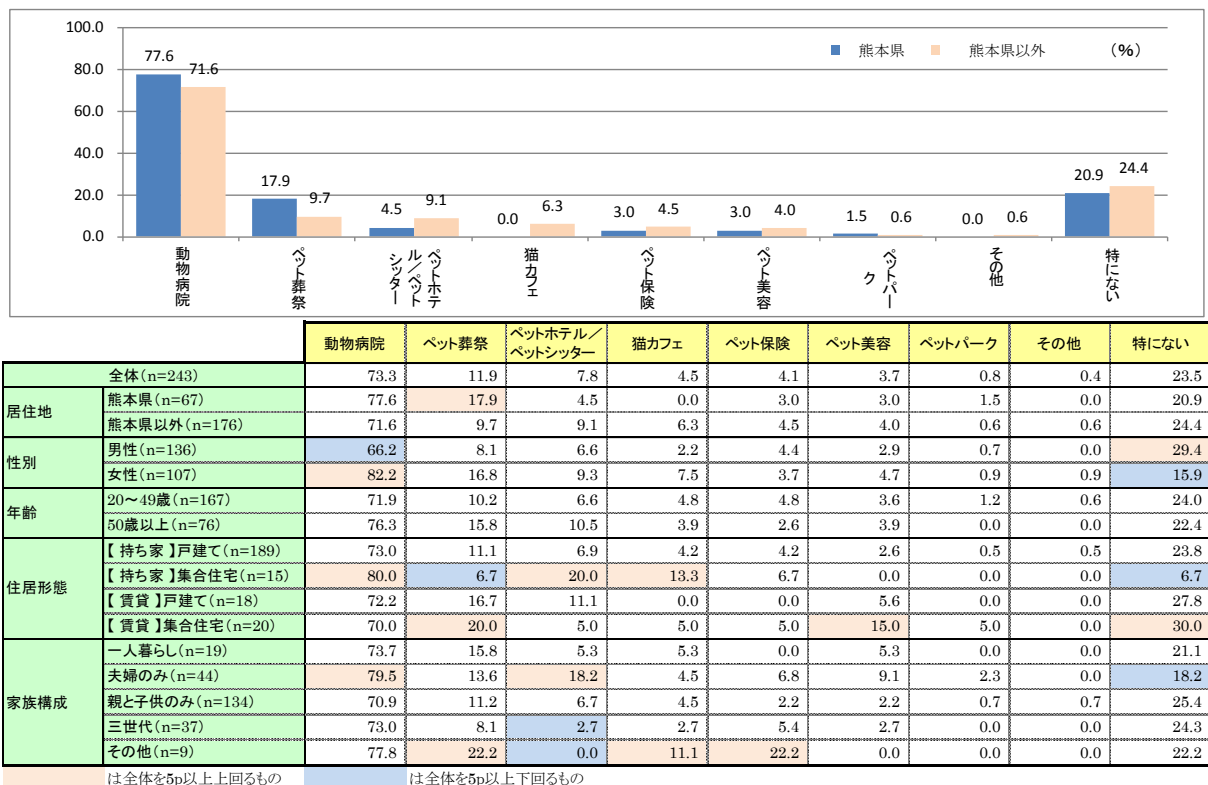
猫に関するサービス等の利用状況をみると、全体では犬と同様に「動物病院」が73.3%で最も高くなっているが、次いで利用比率が高かったのが「ペット葬祭」の11.9%で、比率が大きく低下しており、猫に関しては病院以外の利用は少ないようだ。利用比率が1割を超えるのはこの2つとなっており、犬では利用比率が比較的高かった「ペット美容」(42.0%)や「ペットホテル/ペットシッター」(22.6%)も低い。猫の場合は室内飼育が主で、犬には不可欠の散歩も不要などの性質の違いによってサービス等の利用状況が異なっているものと思われる。

居住地別にみると、熊本県では「動物病院」(77.6%)と「ペット葬祭」(17.9%)の利用比率が、熊本県以外と比べて高くなっているが(利用比率1%以下の「ペットパーク」を除く)、「ペットホテル/ペットシッター」や「猫カフェ」、「ペット保険」、「ペット美容」などでは逆に低くなっている。

住居形態別にみると、そもそも猫を飼育している人の住居形態は【持ち家】戸建てが多いことから、これ以外のサンプル数が犬に比べても少ない。従って、あくまでも参考的な分析となるが、集合住宅の方が戸建てに比べて全体的に高くなっている。

家族構成別にみると、夫婦のみで「動物病院」(79.5%)と「ペットホテル/ペットシッター」(18.2%)の利用比率が他に比べて高い。一方で、親と子供のみと三世代では、犬と同様に他に比べて利用比率が低くなっている。なお、その他については、サンプル数が極端に少ない(9)ことから分析の対象としない(図表5)。

図表5 猫に関する利用サービス等



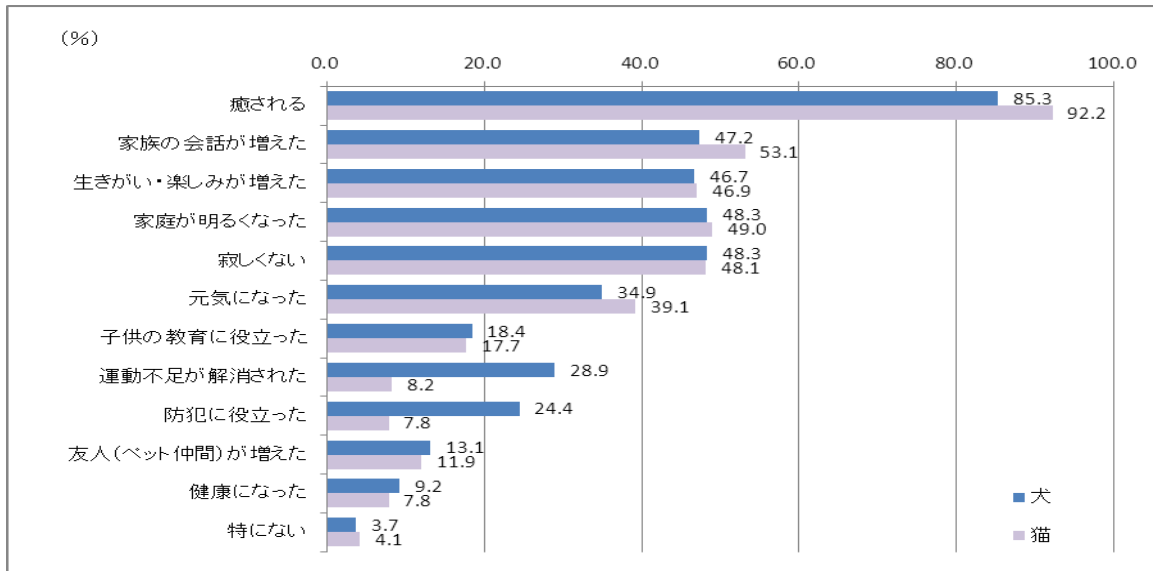
4. ペットを飼っていて良かったこと、不安や心配なこと

・ペット飼育の効用は「癒し」、一方で「健康面」の不安や「旅行に行けない」という悩みも

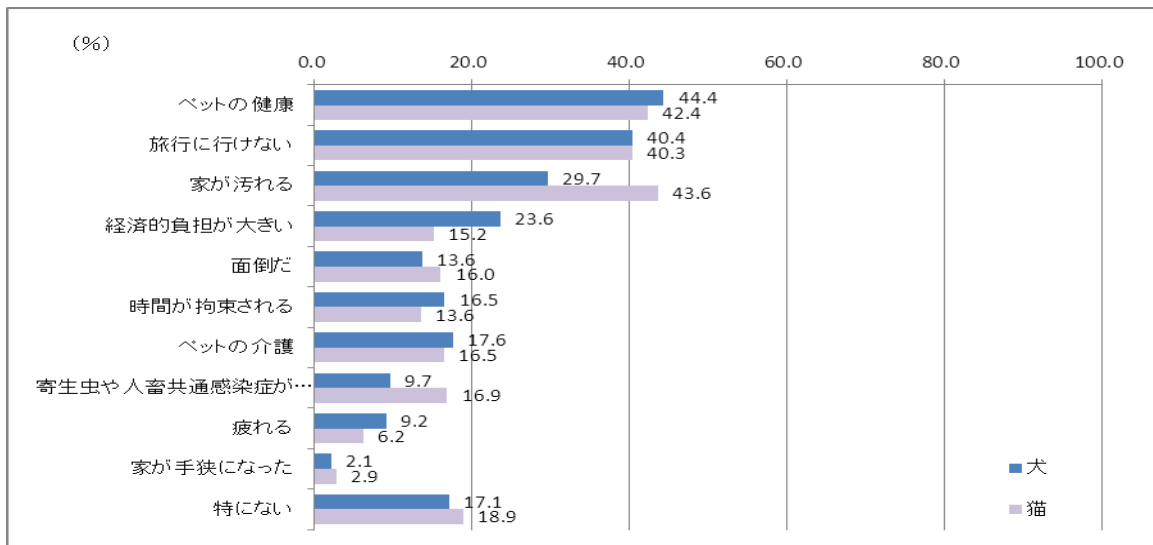
ペットを飼育していて良かったことは、犬猫共に「癒される」が圧倒的に多く、犬が 85.3%、猫が 92.2%となった。次いで、犬では「家庭が明るくなった」と「寂しくない」がともに 48.3%で同数となり、猫では「家族の会話が増えた」が 53.1%となった。「運動不足が解消された」と「防犯に役立った」では、犬と猫の差が大きく、いずれも犬ならではの効用のようだ（図表 6）。

一方、不安や心配なことでは、犬猫共に多かったのは「ペットの健康」（犬 44.4%、猫 42.4%）と「旅行に行けない」（犬 40.4%、猫 40.3%）で、いずれも 4 割を超えた。また猫は「家が汚れる」が 43.6%で最も多くなっている。猫は室内飼育が主となることから、戸外との出入りによる室内の汚れを気にする飼育者が多いようである。しかしながら、犬、猫ともに、良かったことに比べると、回答率が全体的に低くなっており、不安や心配を抱えながらも、楽しみや喜びを感じている飼育者が多いことがうかがえる（図表 7）。

図表 6 ペットを飼っていて良かったこと



図表 7 ペットを飼っていて不安や心配なこと



5. ペット飼育にかかる費用

(1) 犬にかかる費用 病気やケガの治療にかかる費用が最も多く、費用の合計では年間約 19 万円

犬を飼育する際の1年間にかかった費用では、最も利用が多かったドッグフードでは「1～5万円未満」が61.9%だった。次いで利用が多かった予防接種も「1～5万円未満」が41.5%、ドッグフード以外の食費は「5千円未満」が24.9%、首輪・リードでは「5千円未満」が52.0%となっている。それぞれの「かからない」を除いた平均金額では、病気やケガの治療が4.0万円で最も多く、以下ドッグフードが2.9万円、ペット保険が2.3万円と続いており、これらの合計金額は18.6万円となった(図表8)。

図表8 犬の飼育にかかる年間費用 (%)

	5千円未満	5千～1万円未満	1～5万円未満	5～10万円未満	10万円以上	かからない	平均金額(万円)
ドッグフード	10.0	11.3	61.9	10.2	3.9	2.6	2.9
予防接種	20.2	20.2	41.5	1.3	1.8	15.0	1.3
ドッグフード以外の食費	24.9	19.7	22.8	1.6	0.8	30.2	1.1
首輪・リード	52.0	10.8	5.0	0.8	—	31.5	0.4
日用品	23.9	13.9	20.2	1.6	1.6	38.8	1.8
病気やケガの治療費	11.3	8.9	29.7	4.7	4.4	40.9	4.0
シャンプー・カット・トリミング	18.1	8.1	26.8	3.9	1.6	41.5	1.9
洋服	16.3	7.9	8.1	0.5	—	67.2	0.9
ペットホテル・ペットシッター	3.9	4.7	9.7	1.8	—	79.8	1.5
ペット保険	2.6	1.3	5.5	1.3	—	89.2	2.3
ドッグラン	5.5	1.6	1.3	—	—	91.6	0.5
						金額合計	18.6

※利用の多かった(「かからない」が少ない)順に記載

(2) 猫にかかる費用 犬に比べて費用は少ないものの、費用の合計は約 12 万円

猫を飼育する際の1年間にかかった費用では、最も利用が多かったキャットフードでは、犬と同様に「1～5万円未満」が52.7%だった。次いで利用が多かったのは日用品で「5千円未満」が23.0%となっているが、キャットフード以外は「かからない」の割合が最も多く、猫の飼育に際しては、犬と比べると費用はあまりかからないようである。それぞれの「かからない」を除いた平均金額では、犬と同様に病気やケガの治療が多かったが、その金額は2.5万円で犬に比べると少なくなっている。これらの合計金額についても11.9万円となり、犬を7万円程度下回っている(図表9)。

図表9 猫の飼育にかかる年間費用 (%)

	5千円未満	5千～1万円未満	1～5万円未満	5～10万円未満	10万円以上	かからない	平均金額(万円)
キャットフード	12.8	19.3	52.7	9.9	4.1	1.2	2.5
日用品	23.0	12.8	19.7	0.0	1.2	43.2	1.0
病気やケガの治療費	7.0	9.5	22.2	2.9	1.6	56.8	2.5
キャットフード以外の食費	20.6	10.3	11.5	0.8	—	56.8	0.6
予防接種費	10.7	10.3	16.0	0.4	0.4	62.1	1.1
首輪・リード	31.7	1.6	1.2	—	—	65.4	0.2
避妊治療	4.9	4.9	19.3	2.5	0.8	67.5	2.1
シャンプー・カット・トリミング	7.0	1.6	1.2	0.4	—	89.7	0.5
ペットホテル・ペットシッター	1.6	2.5	1.6	—	—	94.2	0.7
ペット保険料	2.1	0.4	0.8	—	—	96.7	0.7
						金額合計	11.9

※利用の多かった(「かからない」が少ない)順に記載

おわりに

少子高齢化や単身世帯の増加等に伴い、ペットを家族やパートナーとして認識する傾向は強まってきたおり、ペットの衣食住の生活全般にわたって人間と同様の取扱いや環境を整える飼育者が増えている。そのような中で、ペットフードや用品、生体販売等を含めたペット関連市場は1兆4千億円規模となっている。(矢野経済研究所推計) 今後は、小型犬の増加によるドッグフード需要の減少や、低価格化等に伴い市場規模の大幅な増加は見込めないものの、従来は飼育が制限されていたマンションなどの集合住宅においても、犬や猫の飼育も可能な共生住宅が増える傾向にあり、今後は潜在需要が顕在化してくることが予想される。

本稿では、飼育しているペットの種類や飼育数、利用しているサービス等を中心に考察を行ったが、熊本県居住者は「5匹以上」の犬や猫を飼育している割合が、他県に比べて多いという特徴が明らかになった。また、犬の場合は、動物病院の利用だけでなく、ペット美容やペットホテル／ペットシッター、ドッグランなど、多様なサービスが利用されていることもわかった。

また、回答者の住居形態によって飼育状況に違いが表れる結果も表れている。具体的には、集合住宅の居住者の飼育数は、戸建てに比べて「1匹」の割合が、犬、猫ともに高く、加えて各種サービスの利用比率も高くなっている点である。ペットと共生できるマンション等の集合住宅は、近年増加傾向にあるものの、今なお、ペットの飼育にあたっては、満足な環境とは言えない状況にあることがうかがえる。

このような現状を踏まえると、更なる居住空間の整備改善や、関連用品や各種サービスの提供等が、“飼いたくても飼えない”という潜在ニーズの掘り起こしにつながると考えられる。